

「佐渡百年物語」プロジェクト構想

環境島による佐渡島再生事業



NPO法人 さど
平成20年4月

豊かな自然に生まれ、世界に誇れる伝統と文化が息づく佐渡島は「日本の縮図」と呼ばれるほどの自然、生態系、景観を有しております。また、独自の生態系を持ち、佐渡島固有の野生生物も多く生息しています。トキもまたこのような豊かな自然の恩恵を受け、私たちと共生してきた時代がありました。しかしながら、人類の生存をも脅かす地球環境崩壊の中、朱鷺の最後の生息地でもある佐渡島の里地や里山、川や海などの自然も環境破壊の危険に晒されています。さらに、佐渡島は、過疎高齢化による産業や文化の担い手不足や、島の主要産業の一つである観光業の不振も深刻な状況で長い歴史に育まれてきた島特有の文化や伝統も失われてきており、佐渡島は存亡の危機を迎えています。



今年、朱鷺の放鳥が実行されます。このイベントは環境フェスティバル開催国の日本にとって国際的に注目されるだけでなく、わが国の環境戦略そのものが評価される重要な取り組みでもあると考えます。私たちはこの放鳥が佐渡島経済の再生と島民の意識改革にとって最大かつ最後のチャンスと位置づけると同時に、官民が一体となって朱鷺と人の共生を成功させる社会的責任があると自覚しています。そこで、佐渡島の根っこにある歴史や伝統、文化や島ならではの環境や資源を活かしながら、従来の発想や枠組みにとらわれない持続可能な「佐渡島文化環境経済戦略」を速やかに策定し実行する必要があります。既存のしがらみに縛られない未来を担う異業種の若手コンソーシアムを設立して、島内外のきらめく人材を活かしながら、新しい雇用を創出し、未来の子供たちに豊かな佐渡島を残すために、佐渡未来創造プロジェクト「佐渡百年物語」をスタートします。

このプロジェクトが取り組む少子高齢過疎化、伝統産業の衰退、里地里山の荒廃等は、島国日本が抱える重要な課題であり、わが国が環境立国になるための試金石にもなりうる活動です。そこで学んだ経験や検証、仮説、データ、人的ネットワークなどは日本の未来にも大きく貢献できうる可能性を持つものと確信しております。「ものの豊かさから心の豊かさへ」「循環型社会の構築」が叫ばれて久しいですが、既存のしがらみや枠組みに縛られ、佐渡市も大胆な舵取りができずに漂流しています。そんな中、このプロジェクトではマイナスをプラスに転じるべく、島外や海外の先進事例を参考にしながら、戦略を策定すると同時に、「佐渡島百年物語フェスト」や「朱鷺環境財団」などの運用財政基盤を構築し、経営者や行政等それぞれの立場から実現可能な取り組みに着手してまいります。

私たちは、島外からの人材と島民の力を土台として、佐渡の文化・伝統・経済に環境が内在化した持続可能で心豊かな島づくりを目指します。理念を受け継ぎ、時を超え、世代を越えての百年理念と着実な成果を積み重ね、今年、来年、... 誕生した子供たちが、大人になり、佐渡での生活を財産に思う、その土台を築く、小さいけれど大きな一歩です。日本の縮図・佐渡島でのチャレンジが21世紀の島国日本の問題解決につながります。

佐渡島の現状と課題

過去、幾度と無く様々な研究機関の朱鷺や環境の調査・研究が行われ、各種の提案や国の助成金が佐渡島に入ってきました。しかし、調査・研究の情報やデータは佐渡に蓄積されず、助成金そのものも従来の枠組みの中で短期的な対処療法でしかなく、持続可能なプラットフォームを形成できずにいます。費用に見合った効果も持続性がなく、経済再生の根本的解決の糸口が見出せないのが現状です。そのため、経済の土台を作る産業・文化の担い手が不足し、地場産業が衰退。結果として、働く場の無くなった若者の流出を引き起こすという負の連鎖が断ち切れない状態にあります。雇用を促進する地域資源を生かした新しい産業の創生と従来の産業の新しい発想と担い手育成が急務となっています。

深刻な人口の減少と高齢化

平成2年7,8061人→平成17年6,7386人に
昭和25年度の125,597人の約50% (国勢調査より)

65歳以上の高齢人口比率が32.1%
年少人口(0~14歳)生産年齢人口(15~64歳)は
実数・割合共に減少。更に高齢人口は増加傾向

観光客の減少

観光客の入込数
平成3年 121万人→平成17年 67.7万人
(観光協会調べ)

団体中心の効率重視対応、ホスピタリティ、個人客対応が不十分
体験型観光、滞在型&リゾート型メニューが開発されていない

二つの大きな問題が要因となって、さらに広がる現状の課題

連鎖的悪循環

- ・第一次産業従事者の高齢化
- ・産業・文化の担い手不足
- ・島内産業の衰退

- ・若者の離島
- ・若者の来島が無い
- ・地場産業の枯渇

- ・働く場所が無い
- ・雇用の受け皿がない

その他の課題

- ・交通インフラの問題→旅費が高い
(Ex. ジェットフォイル新潟・両津 片道6000円以上)
- ・島内生産の物産品が少ない(島外資本の土産品が多数)
- ・商工業がない(一次産業と観光業への依存率の高さ)
- ・多くの文化財建造物の老朽化、商店街シャッター化

既存の枠組みの中での発想
出る杭は打たれる的な環境がある
新しい方向性が創生されない

佐渡島の地域資源と対処すべき課題

第一次産業

- ・寒暖海流の豊かな漁場
- ・70%以上の林野面積
- ・魚沼に次ぐ上質コシカ



課題

- ・農家の高齢化、休耕田
- ・米価の下落と後継者難
- ・島内消費の減少
- ・観光と農水産の連携

佐渡能



- ・野外能舞台32箇所
- ・世阿弥配所地
- ・薪能の公演

課題

- ・能舞台の老朽化
- ・佐渡能の後継者
- ・薪能と観光との連携

朱鷺野生復帰



- ・生態系の調査情報
- ・本年度放鳥実施
- ・環境島の宣伝効果
- ・野生復帰ステーション

課題

- ・農業(棚田)保全
- ・観光との連携体制
- ・ピオトープ作り
- ・環境維持と人材

佐渡の 地域資源

観光産業

- ・歴史、文化、自然
- ・金山等の施設
- ・旅館、観光交通

課題

- ・外国人富裕層メニュー
- ・滞在型北斗型メニュー
- ・従来型からの脱却
- ・体験、産業観光

食



- ・寒ブリ、牡蠣、鮪
- ・酒蔵と佐渡の酒
- ・佐渡のこしひかり
- ・おけさ柿、佐渡牛

課題

- ・ブランド化、観光連携
- ・地産地消の拡充
- ・食文化の伝承と発信

歴史的建造物



- ・宿根木等の町並み
- ・国重要文化財16件
- ・歴史的建造物多数
- ・金山・寺社仏閣

課題

- ・建造物が老朽化
- ・町並みや部落が消える
- ・所有者高齢化と離島

伝統芸能・工芸

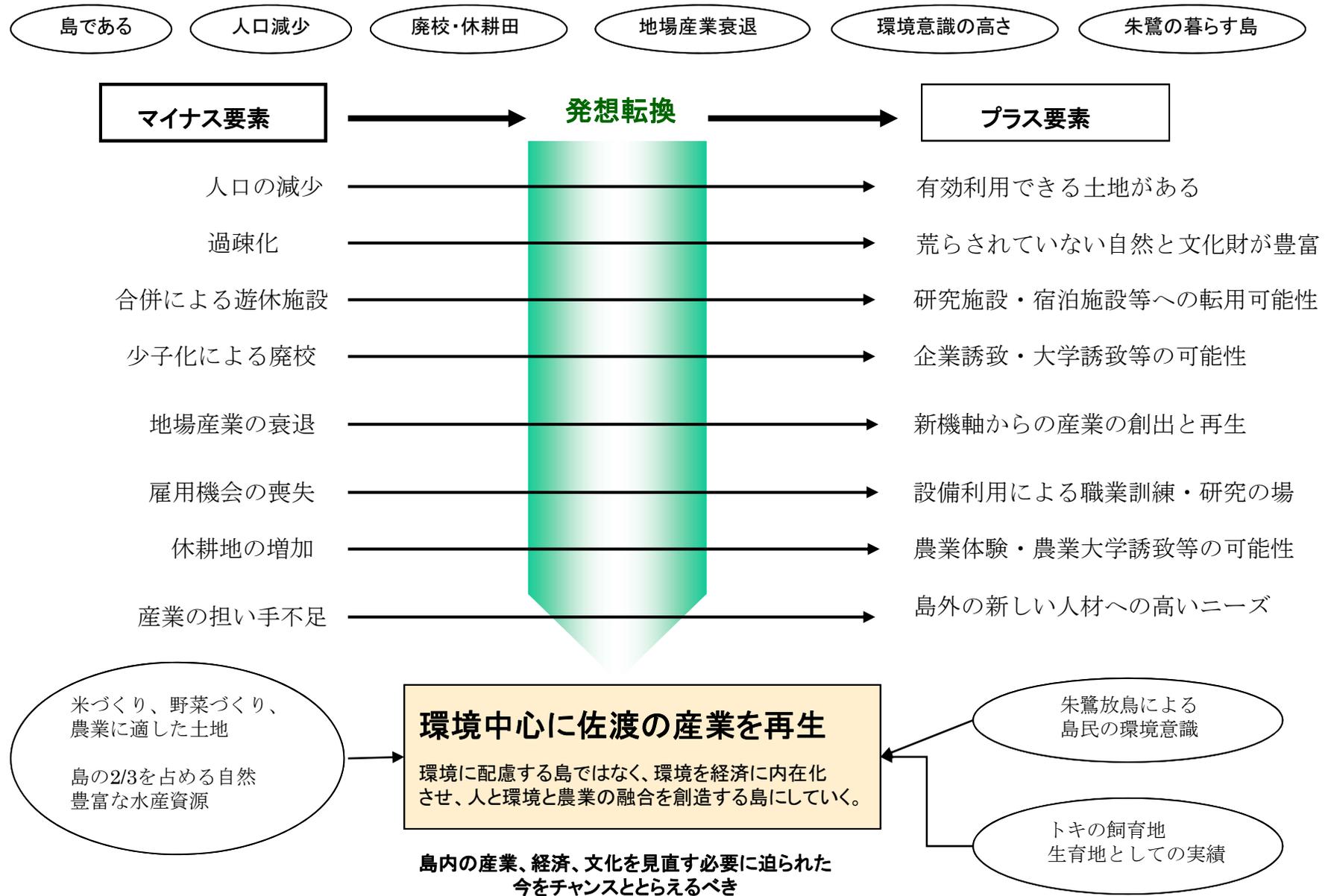


- ・竹細工・無名異焼
- ・鶴女房の里
- ・鬼太鼓・人形芝居

課題

- ・伝統工芸の後継者
- ・伝統芸能の担い手
- ・地域の祭り伝承

佐渡力再構築のためのポジティブシンキング



「佐渡百年物語」主なアクションプラン

朱鷺放鳥と高品質の朱鷺米のブランド化

未来を守り築く環境、朱鷺との共生、そしてその礎となる農水と食、佐渡の歴史を築いてきた伝統。朱鷺野生復帰地域での棚田再生と高付加価値の「朱鷺米」のブランド化。

1. 農業・漁業・酪農の再生

環境の中で身近な食・住を支える農水を担う人材育成、日本農林水産業のモデル島として基礎を構築する。

- ・農家の高齢化対策として棚田農業、収穫、草刈、剪定などを作業する若者を島外から召集して「農業お助け隊」として通年雇用体制を構築する。
- ・佐渡島農学校を創設し、休耕田での稲作作りや実習等、島外より「団塊農業留学生」を募集して佐渡力再構築の基礎を築く。
- ・棚田、無農薬、朱鷺が降りた田んぼ米など付加価値の高い米のブランド化と販路拡大の戦略構想をたて、農家の収益性を高め継続性を推進する。
- ・他地域の先進事例を学び、中山間地帯の集団農業体制、観光産業と連携した米の島内消費拡大など「佐渡米プロジェクト構想」を策定し実施する。
- ・農水産、酪農、醸造、観光産業、学校給食など佐渡の伝統的な食文化と地産地消を見直し、島内の食資源を再構築する。
- ・稲藁、糞尿のバイオマス利用、里山のビオトープ化など環境事業との連携を図る。



2. 環境産業創出

環境経済戦略を構築して、環境を学び研究できる環境島を目指し、新たな産業と雇用を創出する。

- ・研究・開発団体や企業の誘致活動の他、フラッグシップとなる佐渡国際環境会議や講演等の開催を目指す。
- ・環境図書館の創設し朱鷺をはじめ環境実験や研究成果のデータベース化(調査・保存・貸出)。情報の集積とディスクローズを推進する。
- ・環境研究、自然科学研究、環境デザインなどの大学等の誘致や学生研究グループ等を積極的に受け入れる。
- ・朱鷺生息地の環境を恒久的に維持管理できる人材の育成と島民と一体となった環境の取り組みを継続的に推進する体制を作る。
- ・朱鷺放鳥によって生まれる里山・棚田やビオトープ等の環境整備の島内外の人材を「里山レンジャー隊」として受け入れ雇用創出する。
- ・「仮称：朱鷺環境財団」を創設し、朱鷺生息地の環境整備と維持管理などの運用に必要な財政基盤を整える。



3. 今に生きる伝統の継承と後継者育成

能や神楽など日本の伝統芸能や伝統建築・工芸を学べる島を目指す（職人・伝統芸能人の育成）

- ・32の能舞台、800以上の社寺、歴史的建造物、町並みを守り未来に残すため、その保存と新しい活用計画を構築。
- ・佐渡伝統芸能(佐渡能、人形芝居、民謡等)の継承と後継者育成。伝統芸能を全国から招聘し、聖地化を図る。
- ・宮大工や佐渡葺き職人等を育成し、景観環境と建造物のメンテナンス体制を築く。資金調達のための「佐渡百年物語ファン」を創設。



4. 環境インフラと雇用の整備

産官学連携で環境島としてのインフラ整備。島内外人材の雇用コーディネート体制をつくる。

- ・環境負荷の低い交通網整備 →電気自動車・バスの導入(助成の活用)
- ・佐渡カーボンオフセット運動の実施、地熱発電、波発電などの先端テクノロジーの研究と・島内エネルギー循環システムの構築。
- ・環境社会(エコ)検定、農業検定などを創設して佐渡島の環境島としての認知とブランド化を図る。
- ・島外からのキャリア人材や若者の受入れと島内での雇用ニーズをコーディネートする「ひよっこり佐渡島働く学校」を創設して雇用の拡大を創出する。

各界のスペシャリストと共に、次代の創生・再生を実現

「佐渡百年物語」人材の育成と雇用創出モデル

再チャレンジ 未来を築く
住む人の夢、来る人の夢 共に育む島

高齢化で棚田の農作業ができない。子供たちは島を離れて後継者がいない。朱鷺の野生復帰に伴う環境整備に人材が必要。地域の祭りの担い手がいない…。といったように佐渡島内では、担い手が不足による多くの人材ニーズがあります。

島外のカリヤ人材や若者、子供たちが連携し、自立した“佐渡型の環境”を内在化する新しい産業の礎を築く。

- ・島外の人材を中心にキャリアを持った専門家や学識経験者などを再チャレンジ雇用として受入れ、島内の知識と智慧のボトムアップを図る。
- ・島外キャリアたちのアドバイスや指導のもとに新しい担い手を育成すると同時にキャリアの移住や就農留学を図り佐渡力を高める。
- ・農耕という自然と共存する職や伝統と歴史を繋ぐ誇りある職を通じて若者の新しい未来を切り開く。
- ・環境産業の企業を誘致して環境経済の創生と新しい産業による雇用の創出を図る。
- ・島内外の人的資源の登録と雇用をコーディネートする体制を構築する。

朱鷺とともに生きる島

放鳥による雇用創出

- ・朱鷺野生復帰を通し放鳥後の生息地の環境整備の人材養成
- ・里山・棚田維持整備従事者育成と組織化を図る。
- ・新潟大学(プロフェッショナル)との連携
- ・ビオトープレンジャー育成
- ・朱鷺コンシェルジュ育成

島外キャリア人材が再チャレンジできる島

島内外の人との交流で担い手を育成

- ・島外キャリア (技術者の移住サポート)
農業経営 流通 農業科学
伝統工芸・文化・芸術・ものづくり
水産加工 環境研究 環境デザイン
- ・島内スペシャリスト (佐渡の職人)
農業、林業、水産業、工芸、
伝統建築などの技術者、食

若者力が活きる島

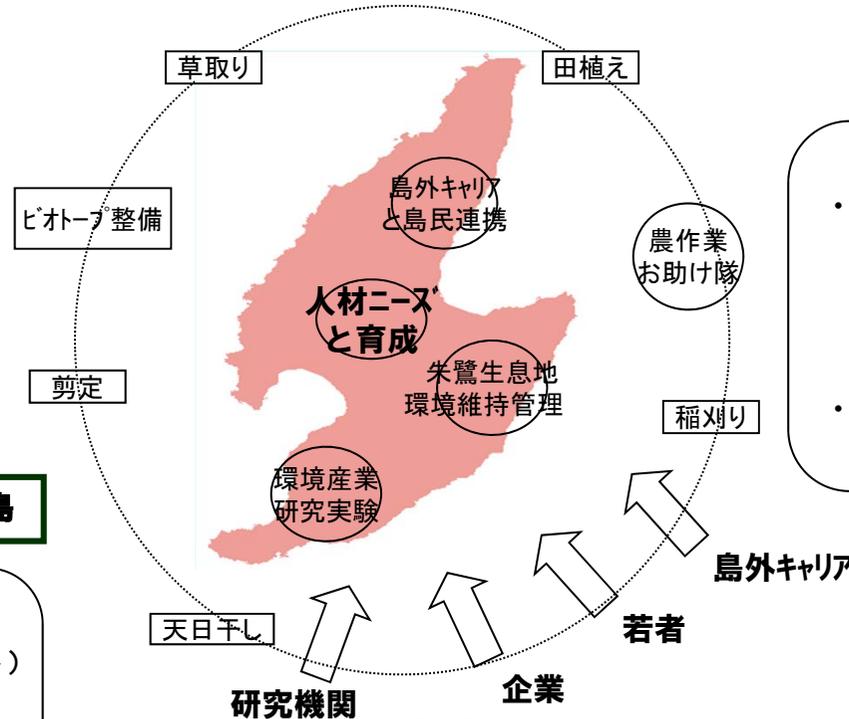
島内外の若者の労働力を生かす

- ・棚田の多い中山間部、高齢化が進む農家の労働力として島内外から若者を集め、ボランティアエントリも含め「若者農業お助け隊」を組織して雇用と人材を確保する。高齢化による離農に歯止めをかけ、同時に、新しい農業人材を育成する。
- ・集団営農型の農業経営を実施して、生産コストダウンを図り、人材の効率化を推進し新しい農業のあり方を実験する。

環境産業の誘致

企業・研究所誘致による雇用創出

- ・佐渡環境図書館創設
- ・島内での研究調査結果のデータを集積してディスクローズする。
- ・過去データの発掘調査
- ・企業の実験に対する行政の支援体制
- ・遊休施設の提供



都市部と島の集落との交流体制の構築

「佐渡百年物語」モデル地区での取り組み

農業、工芸、自然、朱鷺の野生復帰など多くの課題が山積していますが朱鷺の野生復帰を控えて、本年度はモデル地区を選定して複合的に課題解決と実証実験を行います。朱鷺の野生復帰として指定されている小佐渡の東部地区には、岩首、赤玉、野浦、片野尾など海沿いに集落があり標高300から400メートルのあたりに棚田があります。急傾斜のためコンバインは入ることができず、田植え、稲刈は人力。乾燥もはざ木に天日干しをしています。南側の斜面に注がれる太陽の恵みも受けて、佐渡島内でも特に美味しいお米ができます。しかし、お米もこの悪条件のため高齢化した農家の放棄水田が目立ち、この地域の開発が急務となっています。

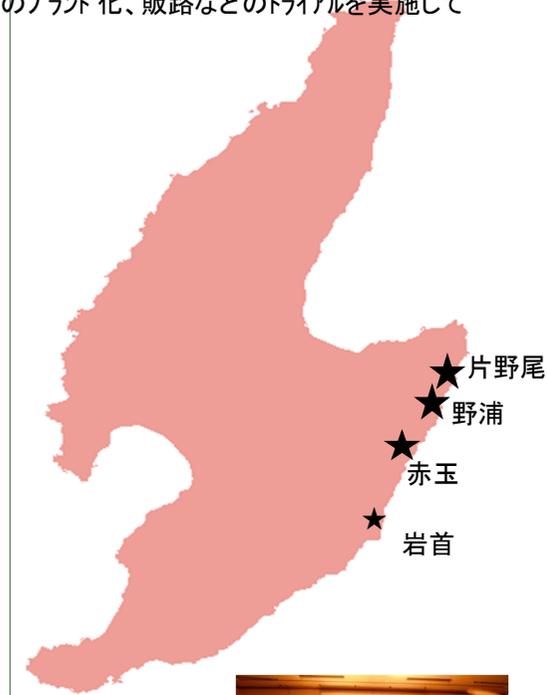
それぞれの地域には伝統芸能や祭りがありますが、学校は廃校になり、佐渡の地域資源にもなっている竹林の荒廃も大きな課題です。地域での実証実験が佐渡の試金石になりうる要素をもっていることから、農業、芸能、文化、教育、朱鷺、ビオトープ化、米のブランド化、販路などのトライアルを実施して佐渡島再生のモデルケースを創出します。



廃校となった岩首小学校



荒れた竹林



天日干しがほとんど



急傾斜の棚田

複合的な主な取り組み

- ①米のブランド化
- ②放棄水田の再生
- ③集団営農
- ④若者の農業労働力
- ⑤ビオトープ化とその活動組織化
- ⑥伝統工芸商品開発と祭り継承
- ⑦グリーンツーリズム等のメニュー開発
- ⑧キャリア人材の就農体験や留学

経済に環境が内在化した持続可能な心豊かな佐渡島をつくる

- ・朱鷺の放鳥をきっかけとしながら、中山間地域の棚田を再生し、朱鷺が生きる安全安心の高品質米をブランド化する。
- ・環境技術研究・実施試験などの新しい産業を育成し、環境と農業との連携した農業経営を構築する。
- ・行政と企業と島民が一体となって、百年先を見据えた「朱鷺、自然、農業の共生モデル」の環境島を目指す。

農業の育成と再生

- ・棚田米、朱鷺米ブランド化
- ・農業の再生と担い手育成
- ・農業学校創設・農業留学推進
- ・若者お助け隊組織化

環境先進島

- ・エネルギー循環の仕組み構築
- ・カーボンオフセット実施の島
- ・島内交通インフラ電気自動車
- ・国際会議や講演の誘致
- ・大学や研究機関の誘致
- ・環境産業の誘致

伝統の継承

- ・建造物・町並みの維持保存
- ・伝統文化の後継者育成

雇用創出
産業育成
担い手

佐渡文化環境経済戦略

島内外人材コーディネート体制構築
財政基盤としてのファンド創設

NPO法人 設立

世界からフォーカスされる環境先進島としての“佐渡ブランド”の価値創出

歴史・伝統の継承

佐渡能・鬼太鼓・佐渡おけさ
街並み・歴史的建造物
地場産品の商品開発

食文化の再生とブランド化

安全安心の佐渡のブランド 定着
伝統的な食文化の発掘と継承
食文化と観光との連携

新しい観光開発

環境の産業観光
学校の農村体験授業
グリーンツーリズム
エコツーリズム